

平成30年度発達障害教育実践セミナー

平成30年8月3日（金）  
一橋大学一橋講堂  
（学術総合センター）

～通級による指導に期待されること～

第2分科会

通常の学級と通級指導教室との連携



佐賀大学大学院  
学校教育学研究科  
日野久美子

# 「通級による指導」で目指すもの

## 通級指導の終了を何で判断するのか

子どもができなかったことができるようになったとき…？

→ 特性による問題・課題は環境によって次々に起きてくる

◆ 本人の成長 → 適応力の向上

得意・不得意に応じてスキルアップすること

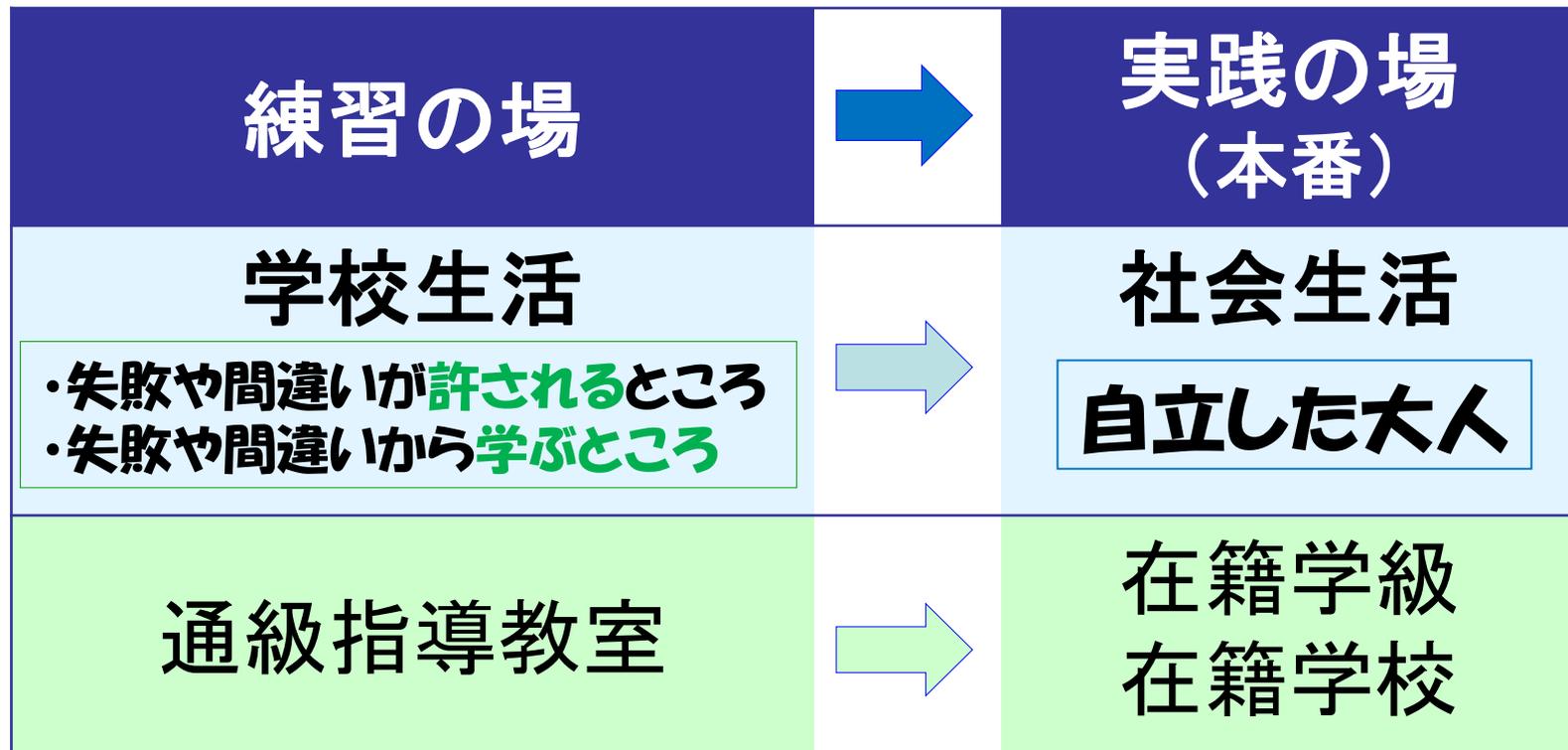
◆ 周囲の変容 → 環境調整力の向上

場面や成長段階に応じて支援の方策  
(内容・方法)を考える



この二つを合わせて目指す

# 「通級指導教室」は練習の場



練習の場で何を学ぶか・本番にどうつなげるか

目指すのは、在籍学校での適応

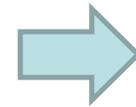
# 「社会」は本番

社会に適応できる

自立した大人

仕事・役割に責任を負うことができる

- ・失敗や間違いが許されないところ
- ・失敗や間違いを次に生かす力



サポート

どのようなサポートが自分には必要か  
内容(質)・量(時間)・求め方(人間関係)



自己理解

+

自己対応(努力とサポート)

# 連携のねらい

## なぜ連携が必要なのか

通級による指導が目指すのは、

在籍学級・学校での適応力向上

→ 社会での適応、社会自立につなげる

通級による指導の評価は、

→ 在籍学級・学校での子どもの適応状況による

- ・通常の学級・学校の現状(人的・物的環境)
- ・その中での子どもの行動の現状

相互作用

連携の  
ための場

- 現状を知るための情報交換会
- 支援を考える作戦会議
- 次につなげる評価会議

# 連携の時期と内容

時 期	会の名称等	内 容	目 的
通級指導 開始前	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在籍校参観</li> <li>・在籍校訪問</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級参観 (授業・学級集団等)</li> <li>・指導内容検討 (担任・管理職・特支教Co. 保護者・担当)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在籍学級の状況及びそ の中での子どもの状況を 知る</li> <li>・学級や家庭での情報を 共有し、通級の指導目標 を決定する</li> </ul>
通級指導 期間中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導の記録</li> <li>・担任の会</li> <li>・親の会</li> <li>・学期末在籍校 訪問(管理職宛)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導記録を担任・保護者と 共有する</li> <li>・在籍学級担任の交流会</li> <li>・保護者の交流会</li> <li>・学習の記録を届け、子ど も・担任の関わりも伝える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導内容、結果の共有</li> <li>・担任、保護者としての工 夫や悩みの共有、意見交 換</li> <li>・子どもの状況を学校全 体で共有する</li> </ul>
通級指導 終了時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・終了時支援 (三者連携会議)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導終了後の支援等につ いての話し合い (担任・管理職・特支教Co. 保護者・担当・進学先教員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導終了後(次年度)の 学校内支援体制について、 3学期の支援をもとに考 えていく</li> </ul>

※ 教育委員会・設置校校長名による文書

# 連携を深める 1

## 通常の学級(担任)と通級指導教室(担当)の連携

### 連携するために大切にしたいこと

→ お互いの意思疎通がある

ex. 定期的な機会の設定

→ お互いのやっていることを尊重する

ex. 支援方法の選択肢の提供

→ お互いに評価し合うことができる

ex. 「指導の記録連絡ファイル」や「通級指導教室のあゆみ」に担任のコメント欄

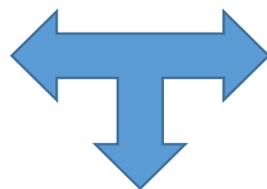
## 連携を深める 2

### 指導目標・支援内容を作る過程

担任と担当が一緒に考えるために

学習指導案の作成過程を参考に考えると・・・

教材観  
(自立活動)



児童・生徒観  
(実態把握)

指導観  
(指導目標・内容)

# 連携を深める 3

## 「自立活動」を新たな共通言語にする

(教材観)

自立活動のねらいと6区分27項目の内容を知っておく

「自立活動」のねらい、内容、方法を理解する

→ 「通級指導教室は何をするところか、  
何ができるところか」が分かる

→ 担任から保護者へ説明できることで、  
通級による指導の理解・啓発につながる

# 連携を深める 4

## 「一人の子ども」の全体像をイメージする ための実態把握

(児童・生徒観)

- ・学級集団の中での観察や評価から分かること  
授業中の取り組み、休み時間などの様子  
→ 担任が中心となる  
→ 担当も授業参観などをして把握する
- ・個別の能力を把握すること  
→ 専門機関や通級指導教室での検査から分かること

- ・学級と教室では、「場」が違う  
→ 子どもの様子が異なるのはなぜか  
→ 共通して問題・課題となる要因は何か

子どもの全体像を  
イメージする

# 連携を深める 5

指導のねらい・内容を共有し実践する  
(指導観)

二つの場での指導  
「学級(集団)」 「通級指導教室(個)」

## ●共通のねらいの元に指導する

- 二人の先生の言っていることが同じ
- 子どもに安心感を与える

## ●それぞれの場に応じた指導内容と方法

- 通級指導教室で効果があった、指導上の工夫や学習環境の整え方等、その成果を学級の指導の中で活かす
- 子どもに自信を与える

# 連携を広げる 1

## 通級指導教室担当の役割

- 通常の学級との連携が強い
- 学校全体の特別支援教育の拠点となる  
(定数配置になれば、なおさらのこと)

## 校内支援体制を整える・充実させる

- ・ 地域も医療も福祉も・・・連携先は様々あって良い
- ・ **学校ができることを考えることはとても大切**
  - 子どもの居場所であること
  - 保護者の安心感や信頼感につながること

# 連携を広げる 2

## 全校の支援を要する子どもの実態を把握する

- ・どんな子どもが(教育的ニーズの内容)
- ・どれくらい(人数)
- ・どこにいるのか(在籍している学級)
- ・どんな支援を受けているか(支援資源・内容)

- ・現在の全体の状況を把握する(横断的)
- ・子どもの進級を追いながら把握する  
(縦断的:引き継ぎ)
- ・全ての教職員が情報を共有する

# 連携を広げる 3

## 教育的ニーズを子どもの側から把握する

- 一人の子どもの特性は変わらない  
→ 問題の要因となっている特性(中心の課題)を見極めることが大切
- 発達段階や環境によって、一人の子どもでも教育的ニーズは変化する(問題行動などは左右される)  
→ 教師の役割分担(生徒指導・教育相談・特別支援教育など)で子どもの問題を区分しない

# 連携を広げる 4

校内支援体制を整えるために→「支援レベルシート」

## 支援レベルの程度

レベル	支援の程度
3	学級の中だけでなく、特別支援学級や通級指導教室など、学級外での個別支援を受けている、またはそれと同程度の個別支援を要する程度。 ただし、学級での支援が特に必要でない場合は、(3)と表示する。 (言語通級で発音課題訓練の児童など)
2	学級の中で、学習や活動内容に応じて、担任だけでなく支援員等の個別支援を要する程度。
1	学級の中で、担任の配慮による個別支援を要する程度。
△	以前は支援レベル1以上であったが、現在は個別支援がほとんど必要無い程度。 年度途中や新学年でレベルが変わることもあるので、削除はせずに、このシート上で引き継いでいくようにする。

# 支援レベルシート

・作成した時期が分かるようにする。見直しは前回のデータの修正を行うが、シートとしては、新たに保存していく。

支援レベルシート 第( )学年 (平成〇〇年度)

平成〇〇年〇〇月〇〇日現在

番号	A 名前			性別	B 課題					C 支援内容				D 備考		
	組	漢字	ふりがな		学習面	行動面	対人関係	身体的	出席状況 欠席/授業 (〇年〇学期)	その他・ 家庭環境 等	レベル	支援 学級	特別支援教育支援員		その他	
													支援内容			要望書
1																
2																
3																
4																
5																
6																
7																
8																
9																
10																
11																

**A**

・学年単位で、子どもの状況を把握するため、学年で1枚のシートにまとめて作成する。

**C**

・3. 2. 1. △で記入。  
・レベル基準は表1参照。  
・△になった時期も入れる。

**B**

・一人の子どもに該当する全ての課題について、教育的ニーズの観点から客観的にとらえて簡潔に記入する。  
・次回の見直しまでの情報を集約する(出席状況の時期を入れる)。  
・各学校の環境に応じて、項目を付加する。

**D**

・現在の支援内容について簡潔に記入する。  
・支援学級のシートには、交流学級での支援内容も必要に応じて記入する。  
・例えば「要望書」欄を設けて、支援員配置要望書の支援対象として挙げた記録などを記載すると、事務処理にも役立つ。

・支援に関して左記以外に必要なことを記入する。

# 参考文献・資料

1. 効率的な校内支援体制を支えるための「支援レベルシート」の作成  
ー子どもの教育的ニーズに応じた支援の集約と対応ー  
日野久美子(2017) 佐賀大学大学院学校教育学研究科紀要1. 145-150

2. はじめての「通級指導教室」担当BOOK Q&Aと先読みカレンダーで早わかり！  
通級指導教室運営ガイド 笹森洋樹・大城政之編著(2014) 明治図書

3. 共生社会の時代の特別支援教育 第2巻  
学びを保障する指導と支援 すべての子供に配慮した学習指導  
柘植雅義編集代表(2017) ぎょうせい  
(第4章 通級による指導と合理的配慮 日野久美子)

4. インクルーシブ教育システム構築支援データベース(インクルDB)  
(独)国立特別支援教育総合研究所